



大すきいっぱい西北の子

～学びづくり、くらしづくり、仲間づくり～

令和5年9月1日

長崎市立西北小学校

文責：校長 江原芳樹

第4号

「猛暑」「酷暑」という言葉が日常となった今年の夏ですが、それでも空を見上げると、その青の変化に秋の気配をわずかながら感じるようになりました。青が輝くのが夏で、青が濃くなるのが秋です。見上げると天高しの季節が一步一步近づいているのが分かります。

さて、暑くそして長い夏休みが終わり、今日から2学期が始まりました。学校に元気な子どもたちの声が戻り、校舎が生き返った印象です。1年間で最も長い2学期です。本校らしい教育活動を展開していきたいと強く願っています。2学期も、保護者の皆様のご理解ご協力をよろしくお願い致します。

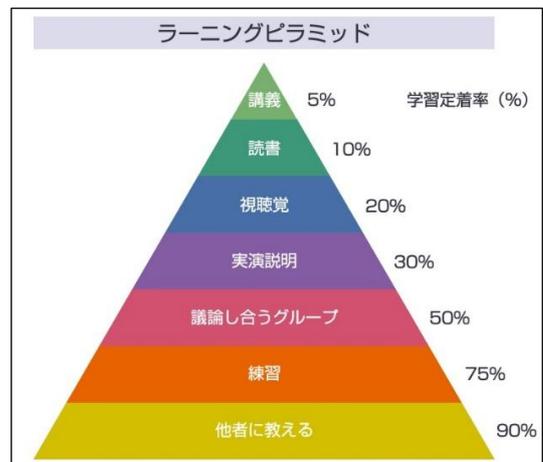
2学期、家庭学習に力を入れます。

「学ぶことの本質は何か?」、私たちの研修ではよく耳にするテーマです。

「学ぶこと」は、単に知識のある者から聞いたり、印象的な動画等の視覚的情報から得ることではありません。学んだことを自分でもう一度試したり、実践したりすることで本物の学びとなり、「身についた学び」になります。

アメリカ国立訓練研究所の研究によると、学習定着率をラーニング・ピラミッドという図で表すことができます。(参照)

講義（聞いて学習）→ 5%
読書（読んで学習）→ 10%
視覚的（見て学習）→ 20%
練習（繰り返す）→ 75%
教授する（教える）→ 90%



あくまでも一つの指針ではありますが、体験的に聞いたり、見たりただけで学習が十分に達成できないことは実感できます。繰り返し練習したり、学習したことを自ら他者に教えたり（学びの活用）することで確かな定着になるのです。

本校にも、家庭学習で自主学習に積極的に取り組んでいる子どもたちがいます。その多くは、自ら学習テーマを設定し、主体的に取り組んでいます。また、その内容を見ていると、学校の授業で学んだことをノートに表記することを通して、もう一人の自分に伝えたり、教えたりする作業を行っています。まさに学習定着率の高い学習に取り組んでいるのです。

西北小学校では、子どもの家庭学習の質を上げるために、先生が課題として出す宿題だけでなく、自分で計画した自主学習や選択学習など、子どもが自分の学習状況に合わせて取り組めるようにしていきます。

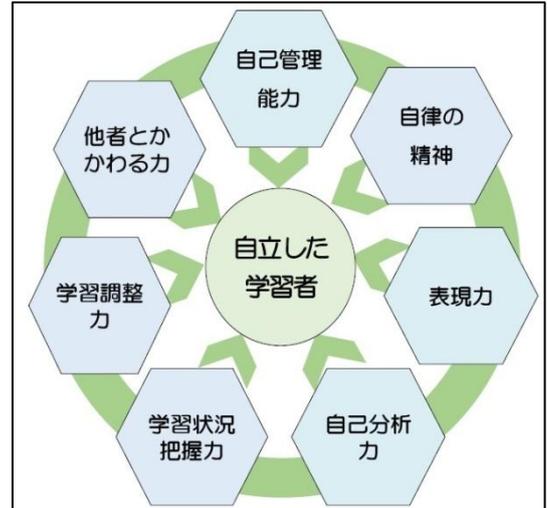
家庭での学習には、保護者の皆様の協力が不可欠です。どうぞ、よろしくお願い致します。

自立した学習者

西北小学校では、子どもを「自立した学習者」にしたいと考えています。多様化した予測困難な社会を生きていくためには、やらされている学習ではなく、自ら力を高めていく学習に取り組める力が必要だと考えているからです。

夏休み期間、全職員で「自立した学習者」のために必要な資質・能力は何か、考えを出し合い、7つに絞りました。今後、日常の授業や学校行事等の場面で、この7つの視点を意識した取組をしていこうと考えています。

保護者の皆様にも共有していただき、共に「自立した学習者」の育成を図っていきたいと思います。



Tetoru 運用開始

学校と保護者間の新しい情報ツールとして2学期から「tetoru (テトル)」の運用を開始します。登録のご協力ありがとうございました。今後は、欠席の連絡は「tetoru」の活用をお願いします。電話による連絡は不要となります。

また、次回の学校だよりからは、「tetoru」による配信を考えています。学校から保護者へ直接配付したい文書等については、保護者の皆様が直接見ることができる「tetoru」を活用していく方針です。ご理解のほどよろしくお願いたします。

《校長散歩道 No.4》

もう20年近く前のことになります。

T 学校に勤務していたとき、A児から伝えられた言葉が、とても印象に残っています。A児は、私が5・6年と2年担任した子どもです。学校のすぐ近くに住んでいて、毎朝早くから登校し、ひとり黙々とボランティア掃除を続けていました。

そんなA児が卒業し、中学生となった6月の日のことです。学校帰りのA児が私のところにやってきました。珍しく興奮しています。

「先生から、『そいけんダメさ!』と言われた!」と言うのです。

「それで怒ってるの?それぐらい、私も言ってたんじゃない?」と声をかけると、きりっと私の顔を見直して、「先生は、『それじゃダメ』って言っても、『そいけんダメ』は言わなかった。」と強い口調で返してきました。

ハッと背筋が伸びました。「そいけんダメ」は、人格否定です。「だからあなたはダメ」と言われている印象です。「それではダメ」は、行動否定です。「その行動はダメ」としたことに對する評価です。ちょっとした言葉の違いですが、言葉のもつ意味は大きく違ってきます。

私たちが話す言葉には、話し手の心情・心持ちが表れます。乗り移っていると言ってもいいのでしょうか。どんな言葉を伝えるかよりも、どんな心情、心持ちで伝えるかが、大切なのだということを教えられた出来事でした。